

「同種の活動」から見る架け橋期の教育

～ 遊びや学びのプロセスからカリキュラムへ ～



幼小の協働による架け橋期のカリキュラム作成を通して、幼児期の遊びを通した学びと小学校の生活科を中心とした教科学習とのつながりをどのように捉えることができるでしょうか。



5歳児から1年生の2年間で「架け橋期」です

本資料では、幼小の「同種の活動」の事例から、幼小の先生が対話を通して架け橋期のカリキュラムを作成していく過程や、相互理解を深めていく過程をイメージすることができます。



は じ め に

令和3年7月、幼児教育の質的向上及び小学校教育との円滑な接続についての専門的な調査審議を行うため、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が設置されました。委員会では、全ての子どもに学びや生活の基盤を保障するための方策や、地域における体制整備等について審議が行われました。

令和4年3月には、審議の経過報告「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引（初版）」及び「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料（初版）」が取りまとめられました。現在、全国で19自治体のモデル地区による手引に基づく実践と並行して、それぞれの地域の特色を生かした取組が進められているところです。令和5年2月には「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」(審議まとめ)が取りまとめられました。この審議まとめは、異なる学校種にまたがる5歳児から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」と称して焦点を当て、当該時期の教育の重要性について、幅広く訴えることを目的としたものです。

審議を通して、架け橋期の教育の充実のためには、幼児教育施設と小学校が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう、架け橋期のカリキュラムを作成することが重要であるとされています。こうした取組により、幼児教育施設と小学校が教育課程の構成原理等の違いについて相互理解を深めることが求められています。

一方、栃木県では各市町行政を主体とした幼小の合同研修会や、地域の幼児教育施設と小学校の交流活動等が進められており、対話を通じた相互理解につながる機会が着実に増えてきています。県教育委員会においても、各種研修を通じて幼児教育と小学校教育との円滑な接続に資する内容を実施するとともに、各自治体の幼小接続に係る取組を推進する事業を展開しているところです。

このような状況を踏まえ、当センターでは、架け橋期の教育の更なる充実を図るために、どのような方法で、あるいはどのような視点で、幼小の協働による取組を進めていくべきか、その過程を知る拠り所となればと考え、本資料を作成しました。それぞれの市町や地域で、架け橋期の教育の充実に資する取組の参考資料として御活用いただければ幸いです。

最後に、本調査研究を進めるにあたり、御協力いただいた委員の皆様に深く感謝申し上げます。

令和6年3月

栃木県総合教育センター 所長
大高 栄男

目 次

1	本資料の趣旨	1
2	本資料の概要と構成	2
3	同種の活動に見る遊びや学びのプロセス	
	事例1 製作活動	3
	事例2 身近な人と楽しむ活動	4
	事例3 植物の栽培活動	5
4	事例から架け橋期のカリキュラムへ	6
5	架け橋期の教育を充実させるための5つのポイント	7

1 本資料の趣旨

本資料は、幼小の先生の対話を通して架け橋期のカリキュラムを作成していく過程や、相互理解を深めていく過程をまとめたものです。架け橋期のカリキュラムは、幼児教育施設や小学校における教育課程や指導計画作成の前提となるものであり、教育課程や指導計画そのものではありません。その様式や内容についても、それぞれの地域で創意工夫されることが求められています。単に架け橋期のカリキュラムとして形を整えることが本来の目的ではなく、作成していく過程を通じて、幼小の先生方が相互理解を深めていくことが求められています。

そのためには、具体的な子どもの姿から、幼小の先生が対話することが重要です。幼児教育施設と小学校では、同じような活動内容に取り組んでいることも多く、本資料では幼小の先生がペアとなり、「同種の活動」として3種類の事例を取り上げ、そこに見られる子どもの姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用しながら対話し、導かれたことを表現しました。特に、幼小の先生による対話を通じて、子どもの経験や学びのつながり、そこで大切にしている先生の関わり等を示しました。このような取組は、架け橋期のカリキュラム作成につながっていくものであり、本資料から、その過程をイメージすることができます。

なお、本資料は「同種の活動」として3種類の事例にある子どもの姿と、幼小の先生の対話から導かれたことをまとめたもので、架け橋期のカリキュラムを作成する際の様式の模範や完成形を示したものではありません。それぞれの市町や地域、学校園等での、子どもの姿をもとにした対話、あるいは架け橋期のカリキュラム作成を通して、相互理解を深めていく際の参考資料として活用し、架け橋期の教育のさらなる充実につなげてください。

※本資料では、幼稚園・認定こども園・保育所等を「幼児教育施設」とし、それらと小学校を併せて「幼小」と表現しています。

2 本資料の概要と構成

「3 同種の活動に見る遊びや学びのプロセス」(事例1～3) について< P. 3～5 >

具体的な子どもの姿から幼児教育と小学校教育とのつながりを捉えるため、幼小における「同種の活動」に視点をあてました。子どもの姿にある遊びや学びのプロセスと、それを支える先生の関わりについてまとめています。

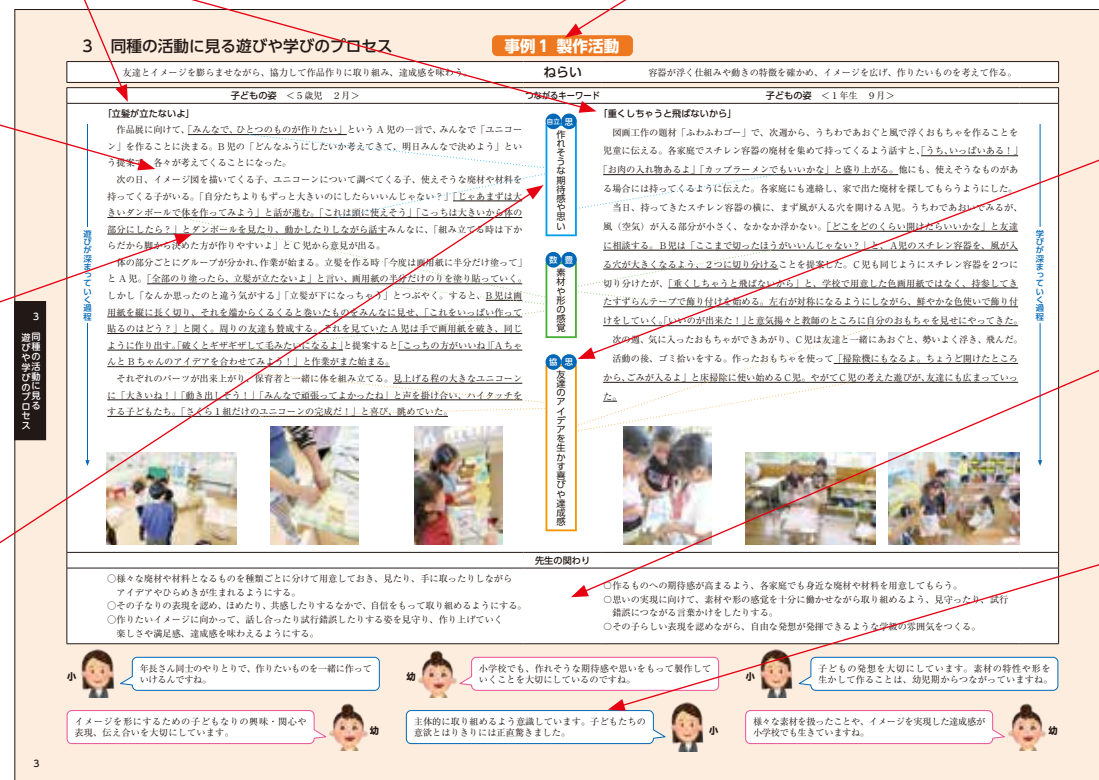
事例にタイトルを付けています。

幼小で行っている「同種の活動」の種類を記しています。

「同種の活動」において、幼小それぞれに遊びや学びが深まっていく子どもの様子を、事例で記しています。

遊びや学びのプロセスの中で、幼小でつながりのある経験や学びが特に表れている場面に、下線——を引いています。

幼小でつながりのある子どもの経験や学びをキーワードで表し、プロセスにある場面と点線……で結んでいます。



子どもの経験や学びを捉える視点となった「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の頭文字（※）を記しています。

事例にある子どもの経験や学びを支えている、先生の関わり（環境の構成や援助等）について記しています。

事例にある子どもの姿をもとにした、幼小の先生の対話を記しています。

※「幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿」を表す
頭文字

健 健康な心と体

自立 自立心

● 協同性

道 道徳性・規範意識の芽生え

社 社会生活との関わり

● 思考力の芽生え

自然 自然との関わり・生命尊重

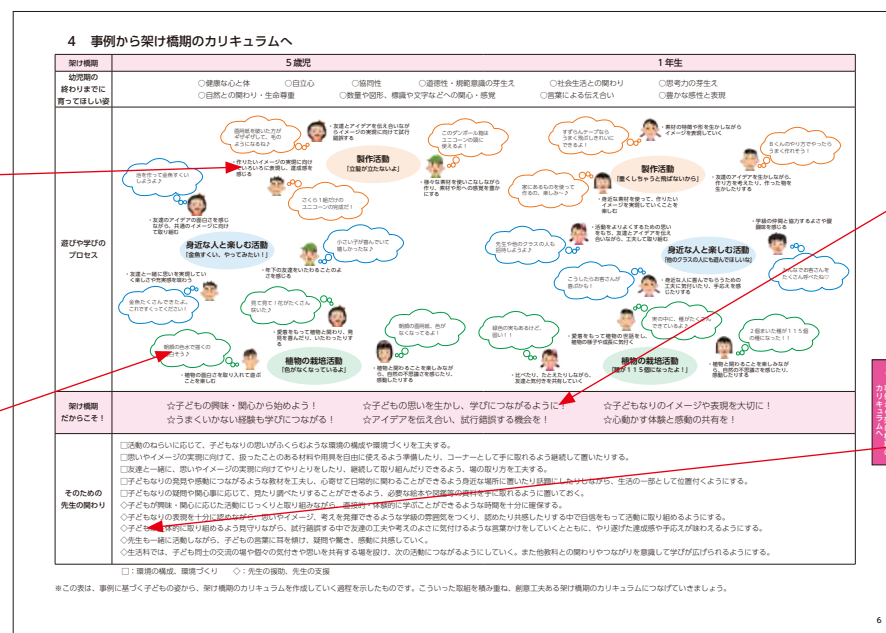
数 数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

● 豊かな感性と表現

「4 事例から架け橋期のカリキュラムへ」について＜P. 6＞

表は、事例をもとに導かれた子どもの経験や学びを示した、カリキュラムにつながっていく過程を示したものです。これは、カリキュラムを作成する際の様式の模範や完成形を示したものではありません。



導かれた「つながるキーワード」をもとに、それぞれの事例の中で大切にしたい子どもの経験や学びを改めて記しています。

経験や学びが表れている子どもの姿を、事例にある子どもの姿として、吹き出しに記しています。

事例についての幼小の先生の対話から導かれた、大切にしたい先生の構えを、「架け橋期だからこそ！」として記しています。

先生が大切にしている関わりを、
6つの事例から総合的にまとめ記して
います。

□：環境の構成、環境づくり

◇：先生の援助、先生の支援

「5 架け橋期の教育を充実させる5つのポイント」について＜P. 7＞

幼小の先生が対話し、相互理解を深めていく過程で導かれた架け橋期の教育を充実させるためのポイントを、5つにまとめました。



5つのポイントを、端的に記しています。

それぞれのポイントの具体
や効果について、説明を加
えています。



3 同種の活動に見る遊びや学びのプロセス

事例 1 製作活動

友達とイメージを膨らませながら、協力して作品作りに取り組み、達成感を味わう。

ねらい

容器が浮く仕組みや動きの特徴を確かめ、イメージを広げ、作りたいものを考えて作る。

子どもの姿 <5歳児 2月>

つながるキーワード

子どもの姿 <1年生 9月>

「立髪が立たないよ」

作品展に向けて、「みんなで、ひとつのものが作りたい」というA児の一言で、みんなで「ユニコーン」を作ることに決まる。B児の「どんなふうにしたいか考えてきて、明日みんなで決めよう」という提案で、各々が考えてくることになった。

次の日、イメージ図を描いてくる子、ユニコーンについて調べてくる子、使えそうな廃材や材料を持ってくる子がいる。「自分たちよりもずっと大きいのにしたらいいんじゃない?」「じゃあまずは大きいダンボールで体を作ってみよう」と話が進む。「これは頭に使えそう」「こっちは大きいから体の部分にしたら?」とダンボールを見たり、動かしたりしながら話すみんなに、「組み立てる時は下からだから脚から決めた方が作りやすいよ」とC児から意見が出る。

体の部分ごとにグループが分かれ、作業が始まる。立髪を作る時「今度は画用紙に半分だけ塗って」とA児。「全部のり塗ったら、立髪が立たないよ」と言い、画用紙の半分だけのりを塗り貼っていく。しかし「なんか思ったのと違う気がする」「立髪が下になっちゃう」とつぶやく。すると、B児は画用紙を縦に長く切り、それを端からくるくると巻いたものをみんなに見せ、「これをいっぱい作って貼るのはどう?」と聞く。周りの友達も賛成する。それを見ていたA児は手で画用紙を破き、同じように作り出す。「破くとギザギザして毛みたいになるよ」と提案すると「こっちの方がいいね」「AちゃんとBちゃんのアイデアを合わせてみよう!」と作業がまた始まる。

それぞれのパーツが出来上がり、保育者と一緒に体を組み立てる。見上げる程の大きなユニコーンに「大きいね!」「動き出しそう!」「みんなで頑張ってたね」と声を掛け合い、ハイタッチをする子どもたち。「さくら1組だけのユニコーンの完成だ!」と喜び、眺めていた。



自立 思
作れそうな期待感や思い

数 豊
素材や形の感覚

協 思
友達のアイデアを生かす喜びや達成感

「重くしちゃうと飛ばないから」

図画工作の題材「ふわふわゴー」で、次週から、うちわであおぐと風で浮くおもちゃを作ることを児童に伝える。各家庭でスチレン容器の廃材を集めて持ってくるよう話すと、「うち、いっぱいある!」「お肉の入れ物あるよ」「カップラーメンでもいいかな」と盛り上がる。他にも、使えそうなものがある場合には持ってくるように伝えた。各家庭にも連絡し、家を出た廃材を探してもらうようにした。

当日、持ってきたスチレン容器の横に、まず風が入る穴を開けるA児。うちわであおいでみるが、風(空気)が入る部分が小さく、なかなか浮かない。「どこをどのくらい開けたらいいかな」と友達に相談する。B児は「ここまで切ったほうがいいんじゃない?」と、A児のスチレン容器を、風が入る穴が大きくなるよう、2つに切り分けることを提案した。C児も同じようにスチレン容器を2つに切り分けたが、「重くしちゃうと飛ばないから」と、学校で用意した色画用紙ではなく、持参してきたすずらんテープで飾り付けを始める。左右が対称になるようにしながら、鮮やかな色使いで飾り付けをしていく。「いいのが出来た!」と意気揚々と教師のところに自分のおもちゃを見せにやってきた。

次の週、気に入ったおもちゃができあがり、C児は友達と一緒にあおぐと、勢いよく浮き、飛んだ。活動の後、ゴミ拾いをする。作ったおもちゃを使って「掃除機にもなるよ。ちょうど開けたところから、ごみが入るよ」と床掃除に使い始めるC児。やがてC児の考えた遊びが、友達にも広まっていった。



先生の関わり

- 様々な廃材や材料となるものを種類ごとに分けて用意しておき、見たり、手に取ったりしながらアイデアやひらめきが生まれるようにする。
- その子なりの表現を認め、ほめたり、共感したりするなかで、自信をもって取り組めるようにする。
- 作りたいイメージに向かって、話し合ったり試行錯誤したりする姿を見守り、作り上げていく楽しさや満足感、達成感を味わえるようにする。

- 作るものへの期待感が高まるよう、各家庭でも身近な廃材や材料を用意してもらう。
- 思いの実現に向けて、素材や形の感覚を十分に働かせながら取り組めるよう、見守ったり、試行錯誤につながる言葉かけをしたりする。
- その子らしい表現を認めながら、自由な発想が発揮できるような学級の雰囲気をつくる。

小



年長さん同士のやりとりで、作りたいものを一緒に作っていけるんですね。

幼



小学校でも、作れそうな期待感や思いをもって製作していくことを大切にしているんですね。

小



子どもの発想を大切にしています。素材の特性や形を生かして作ることは、幼児期からつながっていますね。

イメージを形にするための子どもなりの興味・関心や表現、伝え合いを大切にしています。



幼

主体的に取り組めるよう意識しています。子どもたちの意欲とはりきりには正直驚きました。



小

様々な素材を扱ったことや、イメージを実現した達成感が小学校でも生きていますね。



幼

3 同種の活動に見る遊びや学びのプロセス

事例2 身近な人と楽しむ活動

自分の思いや考えを伝えながら、夏祭りに向けての活動に喜んで取り組む。

ねらい

季節を取り入れた遊びをつくり出し、進んで楽しさを伝えることができる。

子どもの姿 <5歳児 6月>

つながるキーワード

子どもの姿 <1年生 10～11月>

「金魚すくい、やってみたい!」

おばけや夏祭りなど、夏に関する絵本や歌を楽しんでいた。絵本を見て気付いたことを伝え合う中、A児・B児が金魚すくいに興味をもち、「金魚すくい、やってみたい!」と盛り上がっていた。

翌日、登園すると机の上に金魚が一匹置いてあることに気が付き、A児・B児・C児が興味を示す。「金魚だ!作りたい!」と声があがり、必要な材料を担任と用意しながら、一緒に作り始める。それぞれが金魚を作っていたが、途中からA児の提案で、「新聞紙を丸めて顔を作る人」「丸めた新聞紙をビニール袋に入れて体を作る人」「目を丸シールに描いて金魚に貼る人」を決め、金魚を作っていく。たくさん出来上がると、「こんなにできた!」と喜び合い、担任と一緒に数え、満足げな表情を浮かべる。作った金魚はどうするかを聞かけると、D児の「池は?金魚すくいできるように!」という提案にみんな賛成した。

前日からの続きで、金魚の池作りが始まる。担任がブルーシートと新聞紙を用意すると、新聞紙で岩を作ってブルーシートに貼り付けていった。前日の金魚作りには参加しなかった子も池作りに参加し、子ども同士で考えながら作り進めていた。

夏祭り当日、浴衣や甚平を着て、夏祭りに参加する。金魚すくいの出店では、お客さんにポイを渡したり金魚をビニール袋に入れたり、店員になりきってやりとりをしている。A児は「いらっしゃいませ!!」と大きな声で呼び込みを始めた。池の中の金魚が少ないことに気が付くと、A児が「入れてもいい?」と確認し、B児やC児が勢いよく金魚を入れていく。お客さんと賑わい始めると、「これですくってください!」「さあどうぞ!」とさらにはりきり、場が賑やかになる。お客さんにお礼を言われると、嬉しそうな表情を浮かべていた。夏祭り後の振り返りでは、「小さい子に金魚を喜んでもらえて嬉しかった」「みんなで盆踊りができて楽しかった」など声があがった。



健
活動
する
中で
生ま
れる
思い

協
言
み
ん
な
で
取
り
組
む
楽
し
さ

道
社
身
近
な
人
と
つ
な
が
る
手
応
え
や
工
夫

「他のクラスの人にも遊んでほしいな」

生活科の「季節となかよし 秋」の学習で、それぞれが集めた秋の自然物で自由に遊び始める。葉っぱや木の実を使って、それぞれが夢中になって遊んでいる。「顔みたいになったよ」「坂道を転がしたら、おもしろいよ」と自分の遊んでいるものや作ったものを友達に見せ合い始める。

学級全体での共有の場面で、自分の遊びや友達が遊んでいたことを次々と発表する。「もっと遊びたい」「友達がやっていたことをやってみたい」「おもちゃみたいなのが作れるんじゃない?」という意見が出る。その後、類似の活動をしようとしている児童同士でグループになり、一緒におもちゃを作り始める。どんぐりごま、木の実で玉入れ、魚釣りなど、自分たちのおもちゃができると、A児は「みんなが作ったもので遊んでみたい!」と話す。他の子どもたちも大いに賛成する。

その思いを受け、まずは自分たちで遊ぶ時間とった。それぞれの遊びを楽しみながら夢中になっている。感想を聞くと、「楽しかった!」「もっと遊びたい!」「先生たちにも見せたい!」「他のクラスの人にも遊んでほしいな」という意見が出る。みんなで話し合い、2年生と先生方を招待して「1の1 あきランド」を実施することに決まった。

その後、それぞれのグループが「あきランド」へ向けて、友達とよく相談しながら準備を進めている。「もっとおもしろくしたい」「喜んでもらいたい」との思いから、B児たちは「30秒でどれだけ取れるかにしよう」「この四角の中から出たら負けね」「くじびきして当たったら、プレゼントをあげればいいんじゃない?」と、お客さんに分かりやすいルールやさらに楽しめる工夫を考えている。「看板を作ろう」「ルールの紙もあったほうが分かるんじゃない?」などと、はりきって準備が進んでいく。

「あきランド」当日、来てくれたお客さんたちに、「いらっしゃいませ!」と呼びかけたり、並ぶ場所を伝えたり、丁寧にルールを説明したりと、役割を分担し、協力して活動している。「あきランド」終了後の振り返りでは、「友達と協力してできた」「お客さんがたくさん来てくれてうれしかった」「2年生が楽しそうだったから、わたしもうれしかった」という感想があった。



先生の関わり

- 季節に応じた絵本や歌などを通して、子どもなりの思いがふくらむようにしていく。
- 友達と一緒に思いの実現に向けたやりとりが生まれるよう、子どものアイデアを認めたり、共感したりしていくとともに、場の取り方を工夫する。
- イメージの実現に向けて、必要な素材を使いやすく用意しておく。
- 友達の思いや考えに気付いたり、お互いの考えを認め合ったりできるような言葉かけをする。

- 興味・関心を高め、遊びのアイデアをもつきっかけとなるよう、じっくり遊ぶ時間を確保する。
- 子どもが主体的に取り組めるよう見守りながら、指示や助言をしすぎないようにするとともに、友達の工夫や考えのよさに気付けるような言葉かけをする。
- 気付きや思いが次の活動につながるよう、子ども同士の交流の場や、個々の気付きや思いを全体で共有する場を設ける。
- 自由に遊んだり作ったりできるよう、教室にコーナーを設け、材料や道具を継続して置いておく。

小 「今日は、これをやります」と、先生に言われた遊びをするわけではないですね。

幼 小学校でも、興味・関心のある活動の中で、子どもの思いを大切にしているのですね。

小 相手意識をもつことも大切にしていますが、幼児期ともつながっていますね。

季節や子どもの興味・関心をもとに、遊びが生まれるよう環境の構成を工夫しています。



生活科は子どもの思いから活動が始まる教科です。教えるのではなく、子どもの気付きを大切にしています。



手作りの出店にお客さんが来て、みんなでそれらしく実現できた達成感が生きているのでしょう。



3 同種の活動に見る遊びや学びのプロセス

事例3 植物の栽培活動

植物の不思議さを感じ、育ちに興味や関心をもつ。

ねらい

朝顔の種を観察し、種のひみつを見つける。

子どもの姿 <5歳児 2月>

つながるキーワード

子どもの姿 <1年生 9月>

「色がなくなっているよ」

お盆休みをはさみ、久々の登園。庭に出ると、朝顔に花がたくさん咲いているのを見て、「見て見て！たくさん咲いたね」「本当だ。見に行こうよ！」と顔をほころばせて近付いていくA児・B児・C児・D児。A児が「珍しい。白い朝顔が咲いているよ」と指さして言う。B児が「本当だ。色水にしたら、何色になるかな」とつぶやき、4人で花を囲んで見つめる。

花が萎み、子どもたちから「色水作ろう」と声上がる。担任がビニール袋を用意しておく、C児が一番に袋の中に萎んだ朝顔を入れていく。「1、2、3、4、5。これくらい入れればいいかな」と数えながら入れている隣で、担任が「萎んだ花も、咲いている花も沢山あるね」と声をかける。「うん！年長組さんがお世話したもん！」とC児が胸を張った。

全員が色水を作り袋の中を眺めていると、D児が「すごく綺麗だから、何かに使いたいね」と担任に話す。「そうだね。何に使おうか」と一緒に考えるが、良い案が浮かばないD児に、「じゃあ、これで絵を描いてみる？」と提案すると、目を輝かせて「やりたい！」と返ってきた。A児・B児・C児も「面白そう！」と興味をもち近付いてきた。

室内に入り、みんなで作った薄紫色の色水を絵の具として使い、「どうなるんだろう」と話しながら画用紙に絵を描く。色水と同じ色で線や模様が描かれ歓声があがる。D児は絵を描きながら「前は色水は茶色になっちゃったけど、この絵も茶色になっちゃうのかな」と予想しながら描いていく。「どうなるんだろうね」と担任も声をかけた。

数日後、飾ってあった画用紙を改めて見ていたC児が「ねえ、朝顔の画用紙、色がなくなってるよ」と指さす。D児が「本当だ。なくなっちゃうんだ。不思議だね」と2人で並んで絵を眺めていた。



自然

植物への愛着

自然

自然の不思議さと感動

思 数

発見や知的な気づき

「種が115個になったよ！」

夏休みに自分の家に持ち帰り、世話をしていた朝顔の鉢が、再び学校のベランダに並んでいる。「先生、私の朝顔、まだ咲いてるよ！」とA児。「僕のはもう咲かないけど、種が取れたんだよ！」とB児。種のことが話題になり、次の生活科の時間に、種の様子を見てみようということになった。

数日後、生活科の時間。みんなで、観察シートを持ってベランダに行き、自分の育てている朝顔の種の様子をよく観察した。「茶色だね」「たまねぎみたいじゃない？」「やわらかいよ」「緑色のもある。緑のは、固い！」それぞれに顔を近付けてみたり、触ってみたりして、気付いたことをつぶやいている。

「先生、種取ってもいい？」というB児の発言から、みんなで種取りをした。「わっ、たくさん出てきた。中から種が3つも出てきた！1つじゃないんだね！」「ぼくのは4つ！」「こっちは、6つだったよ」1つの実の中に、いくつもの種ができていることを発見し、みんな大盛り上がり。C児は「見て見て、実の中にしきりがあるよ。種の部屋みたい！」と友達に見せ、「ほんとだ！ほんとだ！」と、周りの子が集まる。「こっちでおもしろい発見したみたいだよ」と担任が呼ぶと、みんなが集まってC児の話を聞いたり、種を見たり、自分の種をC児と同じようにそっと割ってみたりしていた。「こんなに取れたよ、全部でいくつかな…。数えたい！」みんなが口々に言った。

その日の算数の時間、朝顔の種の数を数えた。「大きな数は、どうやって数えるとわかりやすいかな？」と担任が聞くと、「10のまとまりにするんだよね」とそれぞれが自分の種を真剣に数えていく。既習の知識を生かして、40、50、60…と、進んで数えていた。「私、115個！！」学級で一番多く種が取れたD児が得意そうに言う。「すごい！！」自然に大きな拍手が沸き起こった。「私の植木鉢に2個まいた種が、115個になったよ！不思議！すごい！」とD児が言った。



先生の関わり

- 変化したり成長したりする面白さを感じられるような植物を育てる。
- 一緒に観察しながら、子どもたちの言葉に耳を傾け、疑問や驚きなどに共感する。
- 植物を使った遊びに興味をもって取り組めるような環境の構成を工夫する。
- 子どもの活動に関わる本をいつでも手に取れるようにしておき、疑問に思ったことを調べられるようにする。

- 自分で育てている植物に愛着をもって関わられるよう、子どもの目に入りやすい場所に植木鉢を並べるようにする。また、友達の植物を見たり比べたりして観察しやすいように場を設定する。
- 色や形、感触等、気づきのきっかけとなる視点を示したり、言葉かけを工夫したりする。
- 子どものつぶやきを取り上げ、一人一人の気づきを学級全体に広げていくようにする。
- 生活科だけでなく、他教科との関わりやつながりを意識して学びが広がるようにする。

小

植物に愛着をもって関わっているのは、幼児期の経験ともつながっているんですね。

幼

自分の鉢で植物を育てているんですね。種の「ひみつ」を見付けることもねらいに含むんですね。

小

種の数に興味・関心が湧いていたので、算数の時間にも関連付けて取り組んでみました。

自然物に関わる中で、子どもが感じた不思議さや面白さに共感する姿勢を大切にしています。

幼

愛着をもって世話をしながら、自分の関わり方や植物の変化について気付くことを大切にしています。

小

子どもの意識の流れを大切にしているんですね。幼児期の生活と重なっていますね。

幼

4 事例から架け橋期のカリキュラムへ

架け橋期	5 歳児	1 年生
幼児期の 終わりまでに 育ってほしい姿	○健康な心と体 ○自立心 ○自然との関わり・生命尊重 ○協同性 ○数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ○道徳性・規範意識の芽生え ○社会生活との関わり ○言葉による伝え合い ○思考力の芽生え ○豊かな感性と表現	
遊びや学びの プロセス	池を作って金魚すくいしようよ ・友達のアイデアの面白さを感じながら、共通のイメージに向けて取り組む 画用紙を破いた方がギザギザして、毛のようになるね ・友達とアイデアを伝え合いながらイメージの実現に向けて試行錯誤する 作りたいイメージの実現に向けていろいろに表現し、達成感を感じる ・友達のアイデアを生かしながら、作り方を考えたり、作った物を生かしたりする 製作活動 「立髪が立たないよ」 このダンボール箱はユニコーンの頭に使えるよ！ ・様々な素材を使いこなしながら作り、素材や形への感覚を豊かにする 家にあるものを使って作るの、楽しめ～ ・身近な素材を使って、作りたいイメージを実現していくことを楽しむ 製作活動 「重くしちゃうと飛ばないから」 友達のやり方でやったらうまく作れそう！ ・友達のアイデアを生かしながら、作り方を考えたり、作った物を生かしたりする 身近な人と楽しむ活動 「金魚すくい、やってみたい！」 小さい子が喜んでいて嬉しかったな ・年下の友達をいたわることのよさを感じる 友達と一緒に思いを実現していく楽しさや充実感を味わう 金魚たくさんできたよ。これですくってください！ ・友達と一緒に思いを実現していく楽しさや充実感を味わう 朝顔の色水で描くの面白そう ・植物の面白さを取り入れて遊ぶことを楽しむ 植物の栽培活動 「色がなくなっているよ」 朝顔の画用紙、色がなくなってるよ！ ・植物と関わることを楽しみながら、自然の不思議さを感じたり、感動したりする 見て見て！花がたくさん咲いた ・愛着をもって植物と関わり、発見を喜んだり、いたわったりする 緑色の実もあるけど、固い！！ ・比べたり、たとえたりしながら、友達と気づきを共有していく 植物の栽培活動 「種が115個になったよ！」 実の中に、種がたくさんできているよ ・愛着をもって植物の世話をし、植物の様子や成長に気付く 2個まいた種が115個の種になった！！ ・植物と関わることを楽しみながら、自然の不思議さを感じたり、感動したりする 身近な人と楽しむ活動 「他のクラスの人にも遊んでほしいな」 先生や他のクラスの人も招待しようよ ・活動をよりよくするための思いをもち、友達とアイデアを伝え合いながら、工夫して取り組む こうしたらお客さんが喜ぶかも！ ・身近な人に喜んでもらうための工夫に気付いたり、手応えを感じたりする みんなでお客さんをたくさん呼べたね♡ ・学級の仲間と協力するよさや醍醐味を感じる	
架け橋期 だからこそ！	☆子どもの興味・関心から始めよう！ ☆うまくいかない経験も学びにつながる！ ☆子どもの思いを生かし、学びにつながるように！ ☆アイデアを伝え合い、試行錯誤する機会を！ ☆子どもなりのイメージや表現を大切に！ ☆心動かす体験と感動の共有を！	
そのための 先生の関わり	□活動のねらいに応じて、子どもなりの思いがふくらむような環境の構成や環境づくりを工夫する。 □思いやイメージの実現に向けて、扱ったことのある材料や用具を自由に使えるよう準備したり、コーナーとして手に取れるよう継続して置いたりする。 □友達と一緒に、思いやイメージの実現に向けてやりとりをしたり、継続して取り組んだりできるよう、場の取り方を工夫する。 □子どもなりの発見や感動につながるような教材を工夫し、心寄せて日常的に関わることができるよう身近な場所に置いたり話題にしたりしながら、生活の一部として位置付くようにする。 □子どもなりの疑問や関心事に応じて、見たり調べたりすることができるよう、必要な絵本や図鑑等の資料を手にとれるように置いておく。 ◇子どもが興味・関心に応じた活動にじっくりと取り組みながら、直接的・体験的に学ぶことができるような時間を十分に確保する。 ◇子どもなりの表現を十分に認めながら、思いやイメージ、考えを発揮できるような学級の雰囲気をつくり、認めたり共感したりする中で自信をもって活動に取り組めるようにする。 ◇子どもが主体的に取り組めるよう見守りながら、試行錯誤する中で友達の工夫や考えのよさに気付けるような言葉かけをしていくとともに、やり遂げた達成感や手応えが味わえるようにする。 ◇先生も一緒に活動しながら、子どもの言葉に耳を傾け、疑問や驚き、感動に共感していく。 ◇生活科では、子ども同士の交流の場や個々の気づきや思いを共有する場を設け、次の活動につながるようにしていく。また他教科との関わりやつながりを意識して学びが広げられるようにする。	

□：環境の構成、環境づくり ◇：先生の援助、先生の支援

※この表は、事例に基づく子どもの姿から、架け橋期のカリキュラムを作成していく過程を示したものです。こういった取組を積み重ね、創意工夫ある架け橋期のカリキュラムにつなげていきましょう。

5 架け橋期の教育を充実させるための5つのポイント

架け橋期の教育を充実させるためには、幼小の先生方が対話し、この時期の教育において大切にしたいことや、カリキュラムのつながりについての認識を共有することが必要です。

ここでは、「同種の活動」の事例について対話することから見えたポイントをまとめました。



語り合える関係作りを大切にしよう！

語り合う機会を設定し
互いを分かり合うことから

何気ない会話の中にも
大切なことがある

対話することで、各々の
実践の価値が再確認できる



子どもの微笑ましい姿から対話しよう！

イメージを共有し楽しく
対話することにつながる

子どもの思いや思考に沿った
関わりを考えやすい

大切にしている経験や学び
の共通性に気付ける



幼児教育と小学校教育における共通項にも目を向けてみよう！

実は同じような活動を
たくさん行っている

子どもの興味・関心や思い、
主体性を大切にしている

友達同士や集団の中で
学びが広がっていく



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用しよう！

子どもの経験や学び、
育ちが共有できる

子どもの育ちを支える
先生の関わりを捉えられる

保育や授業の
改善や工夫につながる



主体的に自己を発揮していく姿を大切にしよう！

遊びの中で、生涯の
土台となる力が培われる

幼児期の経験が小学校で
生かされ、安心感に

はりきりが学校生活の
豊かさに



令和5（2023）年度 幼児教育調査研究委員

【 委 員 】（五十音順）

鈴木 里歩	認定こども園黒羽幼稚園保育教諭
十市ひとみ	小山市立小山第三小学校教諭
永井 紫	足利市立桜小学校教諭
細川 和美	栃木市認定西方なかよしこども園保育教諭
森高 聖和	大田原市立黒羽小学校教諭
安野 真由	足利市わたらせ保育所保育士

【 事務局 】

柴 栄	栃木県教育委員会事務局義務教育課指導主事
高木 恵美	栃木県総合教育センター幼児教育部長
黒川 貴広	栃木県総合教育センター幼児教育部副主幹
高根沢伸友	栃木県総合教育センター幼児教育部副主幹
天川 有紀	栃木県総合教育センター幼児教育部副主幹
富川 千明	栃木県総合教育センター幼児教育部指導主事
神長美津子	栃木県総合教育センター幼児教育部顧問
野中 悦子	栃木県総合教育センター幼児教育部幼児教育指導員
小倉 庸寛	栃木県総合教育センター幼児教育部幼児教育指導員



【 架け橋期の教育の充実に関する指導資料 】

「同種の活動」から見る架け橋期の教育

～ 遊びや学びのプロセスからカリキュラムへ ～

令和 6 年 3 月発行
栃木県総合教育センター幼児教育部
栃木県幼児教育センター

〒 320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070

TEL:028-665-7215 FAX: 028-665-7216

Mail: yokyo-c@tochigi-edu.ed.jp